

2023. 12. 3 (日)
10:00~15:00

文学の郷

ボンネットバスで巡る

文学ガイド付き

- ◆ 集合場所・駐車場 天城会館
(伊豆市湯ヶ島176-2) 午前9時45分集合
- ◆ 見学地
伊豆近代文学博物館 (昭和の森会館内)
川端康成 文学碑 (伊豆の踊子)
旧天城トンネル ※踊子号(1)記念撮影
井上靖 文学碑 (狹銃)
踊子の像 (浄蓮の滝観光センター) ※昼食
湯本館 (伊豆の踊子) 執筆の宿
梶井基次郎 文学碑
上の家・井上靖文学碑 (しるばんば) ほか
- ◆ 定員 28名
- ◆ 参加料 無料 (昼食は自由食となります)
- ◆ 申込先 伊豆市観光協会天城支部
電話 0558-85-1050

※10月11日(水) 午前9時から受付開始

定員になりしだい受付終了となります。



旧天城トンネル



東アジア文化都市
2023 静岡県
Culture City of East Asia 2023 SHIZUOKA



しずおか遺産
SHIZUOKA HERITAGE

伊豆の文豪と温泉を繋ぐストーリーは
「しずおか遺産」に認定されています

申し込み・問合せ
主催

伊豆市観光協会 天城支部 Tel.0558-85-1056
午前9時~午後5時 (火曜日定休日)
伊豆市



HP:QR コード



『ボンネットバスで巡る文学の郷』 見学地



■ 伊豆近代文学博物館(昭和の森会館内)

伊豆出身の作家や、伊豆を愛した文豪の生原稿などの大変貴重な資料、文豪ゆかりの品々が数々展示され、文学が好きな人にはたまらない展示となっています。



■ 川端康成 文学碑「伊豆の踊子」

国道天城大橋より 300m入った、わさび沢跡の横にある碑は、「道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思ふころ…」(川端直筆)とあまりに有名な「伊豆の踊子」の冒頭が刻まれ、文学碑としては稀な川端氏のレリーフ(銅板)の取り付けが施されています。



■ 旧天城トンネル

旧天城トンネル(正式名称=天城山隧道)は、伊豆市と河津町を結ぶトンネルです。明治 38 年に築造され、全長 445.5m、アーチや側面などすべて切り石で建造しており、石造道路トンネルとしては、日本に現存する最長のもので、その旧天城トンネルに続く道は川端康成作「伊豆の踊子」でも有名な旧天城峠です。



■ 井上靖 文学碑「猟銃」

「猟銃」は、昭和24年毎日新聞記者時代の作品です。何回も清書し文壇処女作として一流紙に発表されました。

この作品の舞台は、文学碑の建立されている滑沢溪谷であり、四季折々の風景を満喫することができます。



■ 「伊豆の踊子」執筆の宿 湯本館

湯本館は、文豪 川端康成が「伊豆の踊子」を執筆した宿です。川端康成が「伊豆の踊子」を執筆した部屋は『川端さん』と呼ばれる客間となっており、当時のまゝを保存されています。また、川端康成・梶井基次郎など、多くの文人の貴重な資料を展示しています。



■ 梶井基次郎 文学碑

学生時代梶井基次郎は、結核療養のため、川端康成の「伊豆の踊子」などの校正を手伝いながら湯川屋に滞在していました。

碑文は、昭和2年4月30日付で川端康成に送った当時が偲ばれる山の便りの一文が刻まれています。



■ 井上靖 文学碑「しろばんば」

井上文学発祥のモニュメントとして建立されました。井上靖の幼少年期を描いた名作「しろばんば」の冒頭部分を碑文に、撰文は後輩で詩人の大岡信が担いました。湯ヶ島の旧井上邸跡に建立されています。



■ 上の家(かみのいえ)

井上靖は幼少の頃を天城湯ヶ島で過ごし、その様子を自伝的小説「しろばんば」に残しています。その中で、母の実家である「上(かみ)の家(いえ)」が舞台として登場します。

築150年が経過することから老朽化が激しく、令和3年度に保存改修プロジェクトを立ち上げ、クラウドファンディングなどにより資金を調達して改修工事を行いました。

